

(12) 生物学教育部会

教育部会名	生物学
部会長名／作成者名	石井 弘明
概 要 (2 ページ)	
(1) 組織・運営について 令和6年度の生物学教育部会の運営は、農学研究科主配置の部会長に加え、人間発達環境学研究科1名、理学研究科2名、保健学研究科1名、農学研究科1名、バイオシグナル総合研究センター1名の計7名の幹事によって構成される幹事会メンバーを中心とし、大学教育推進機構の専任助教がこれを補佐する体制で行ってきた。部会長は定期的開催される教養教育委員会および評価・FD専門委員会に出席し、幹事と情報を共有するとともに、現場の教育実施を念頭に、部会におけるカリキュラム編成、非常勤講師やTAの採用、自己評価・報告の取りまとめ等にあたった。組織運営はメール会議による幹事会を基本とし、必要に応じて幹事を通じた部会メンバーへの情報の周知、意見収集を行った。また各部局内での調整は基本的に幹事に依頼し、部会長が全体の取りまとめ・調整を行う形で、これまでに確立された効率的な組織・運営体制を継続することができた。また、各部局内での調整は基本的に幹事に依頼し、部会長が全体の取りまとめ・調整を行う形で、これまでに確立された効率的な組織・運営体制を継続することができた。種々の連絡事項、調整事項については、各幹事を通じて各教員との連絡調整を十分に行うことができた。また実習科目である「生物学実験1」と「生物学実験2」の実施にあたっては、専任助教（石村理知）を中心にその安全で効率的な実施について点検を行い、担当教員との連絡、必要な備品および消耗品の整備を行った。 (2) 実施状況について 生物学教育部会に所属する教員は、基礎教養科目「生物学A」「生物学B」「生物学C」、総合教養科目「地球史における生物の変遷」「生物の環境適応」「人間活動と地球生態系」、共通専門基礎科目「生物学概論A1, A2」「生物学概論B1, B2」「生物学概論C1, C2」「生物学概論D1, D2」「生物学概論E1, E2」「生物学各論A1, A2」「生物学各論C1, C2」および「生物学実験1, 2」を担当している。教員の異動・退職による微増減はあるものの、構成員数はこの数年間ほぼ横ばいで推移している。さらに非常勤講師が、「生物学各論B1, B2」「生物学各論D1, D2」「生物学各論E1, E2」の授業の全部、および「生物学実験1」および「生物学実験2」の一部を担当した。 今年度の授業振り返りアンケートのコメントからは、学生からは概ね好評であった。振り返りアンケートの結果、本教育部会が担当した科目について、それぞれの授業を総合的に判断して有益であったかどうかを問う設問では、多くの学生が「有益であった」「どちらかと言えば有益であった」と答えており、講義内容などは概ね適切であったと考えられる。授業の理解度についても、前期、後期を通して「良く理解できた」、「どちらかと言えば良く理解できた」の回答があり、学生の理解を満たしていると考えられる。 (3) 課題について 生物学教育部会では、令和7年度からの教養科目の改革に合わせて、科目の整理、再編成を行う。これにより課題であった、内容の偏りおよび共通専門基礎科目における科目の共通性について改善できることが期待される。具体的には、3つの基礎教養科目「生物学A」「生物学B」「生物学C」と3つの総合教養科目「地球史における生物の変遷」「生物の環境適応」「人間活動と地球生態系」を、4つの教養科目「生物学A」「生物学B」「生物学C」「生物学D」に変更する。これにより教養科目のより一層の充実を図ることができると期待されるとともに、教員が交代しても科目名が維持されるようになる。近年部会でのFDを実施していないことから、ベストティーチャー賞受賞者の授業を参	

観するなど、教員全体のレベルアップを図る必要があると考える。

（４）総合所見

上述の通り、概ね生物学に関する授業について、講義・実験の設置目標をクリアできていると判断する。また、「生物学各論 E1」担当の上田るい講師がベストティーチャー賞を受賞、「人間活動と地球生態系」担当の石井弘明教授が学生から高い評価を受た教員に選ばれるなど、教員の教育技量は高い水準で維持されており、これを部会全体のレベルアップにつなげることが望まれる。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

各研究科・部局等から部会幹事を選出し、幹事会を構成した。種々の連絡、調整事項について、部会幹事を通じて適切にメール等を用いて連絡、調整を行うことができた。

根拠資料
教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100 字程度）

学生の意見の収集の機会、授業における課題や授業振り返りアンケートに設けている。授業振り返りアンケートについては部会長が確認しており、必要に応じて担当教員に改善を求めることのできる体制をとっている。また、各教員もそれぞれに自主的に改善を図っている。

根拠資料
授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

自己点検・評価により認識される問題点について、授業振り返りアンケートに基づき、それぞれの担当教員および部会全体で認識することで、その改善に取り組み、その成果進捗は次年度のアンケートで再確認し、さらなる改善に務めている。

根拠資料
前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100 字程度）

今年度は部会としてのFDは実施していないが、令和7年度の教養教育改革にあたり相互に授業内容を共有する機会を得た。

根拠資料
教養教育改革資料

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

生物学の履修は、講義形式の知識育成・概念把握のみでなく、実験をとおして講義内容の把握、生物学的研究を行うための基礎技術習得が不可欠である。このため、実験実習に特化した教員の配置、実験補助の配置を行っている。また、実験補助員は短期雇用のため、新任には十分な研修を行って授業にのぞませている。

根拠資料
神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

基礎教養科目では、分子生物学から生態学まで、生物に関する基本的な知識や考え方を幅広く学ぶ授業内容となっている。総合教養科目では生物の進化や多様性のほか地球環境の保全や持続可能な発展という人類全体の課題にも触れ、自然界について自らの問題としてより良く理解できるよう授業が展開されている。共通専門基礎科目では、専門教育を受けるための準備や導入として各学部で学ぶ専門科目との連携を考慮した授業を行っている。

根拠資料

シラバス、課題、講義資料

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

学生の履修基準が示されていることを教員が理解し、その達成のための授業の工夫（シラバスによる明示、小テストなど）がなされている。

根拠資料

シラバス、小テスト、課題

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

授業科目の内容はシラバスに詳述されている。共通目標や個々の到達目標が明示されており、学生自身が単位修得のための理解度を自覚できるようにしている

根拠資料

シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

講義内容の全体像、授業内容、予習、復習などについて、シラバスで提示している。また、小テスト、レポート課題を課すなど、単位の実質化には担当教員が工夫を行っている。

根拠資料

シラバス、小テスト、レポート課題、BEEF+の利用記録

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

基礎教養科目および総合教養科目では基礎知識や発展的な知識を効率よく学ぶため、講義形式の授業を行っている。共通専門基礎科目については、各学部での専門科目につなげるため、講義と実験を配置し、バランス良く学べるよう工夫している。

根拠資料

シラバス、授業記録

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

シラバスの必須項目については記載されている。

根拠資料
シラバス

- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

学生ニーズに合わせた教員配置の判断は、授業振り返りアンケート内容で行っており、各授業内容を把握し優れた専門性をもつ教員配置を行うよう努めている。アンケート内容は部会長が確認しており、必要に応じて改善を求める事ができる体制が取られている。

根拠資料
シラバス

- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

講義科目ではシラバスにオフィスアワーを掲載しており、メール、BEEF など介して質問受け付けの門戸を可能な限り開いている。実験科目に関しては大学教育推進機構所属の助教が実習内容、レポート執筆等の質問を電子メールおよび生物共同教員室にて適宜受け付けている。

根拠資料
シラバス

- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

科目単位で成績評価の適正さについて自己評価を行っており、各教員が適正であると自己評価している。優および秀の比率に関しては、概ねガイドラインに沿っている。

根拠資料
シラバス、成績分布（教養教育委員会資料）

- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

学生授業振り返りアンケートの集計結果から、各科目において適切な学習効果が得られている。興味深く有意義であったとのコメントも多い。受講学生の高校での生物の履修の有無による履修開始時の知識や興味によって理解度に差が出るため、出席率、受講者の成績、授業態度など、多方面から注意深く学修成果を評価していく必要がある。

根拠資料
授業振り返りアンケート結果、BEEF+の記録